



# 雪崩・地すべり 研究センターたより

第65号  
2013. 6月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

**主な記事** ・今年の地すべりと雪崩の発生状況 ・トピックス ・平成25年度の研究課題  
・転入者あいさつ ・平成25年度メンバー ・ニュートンのリンゴの木

## 今年(2013)の融雪地すべりと雪崩の発生状況

### 1. 新潟県、長野県の融雪地すべり発生状況

図-1は、新潟県と長野県における過去10年間の1~4月の融雪地すべり発生件数を示したものです。H25年の1~4月の地すべり発生件数は新潟県6件、長野県3件であり、過去10年間では新潟県が9番目、長野県が5番目の多さとなっています。また、発生時期は両県とも4月が一番多い月となっています。なお、今冬は5月でも中山間地に積雪が残っていましたので、5月に新潟県では3件、長野県では1件の融雪地すべりが発生しました。

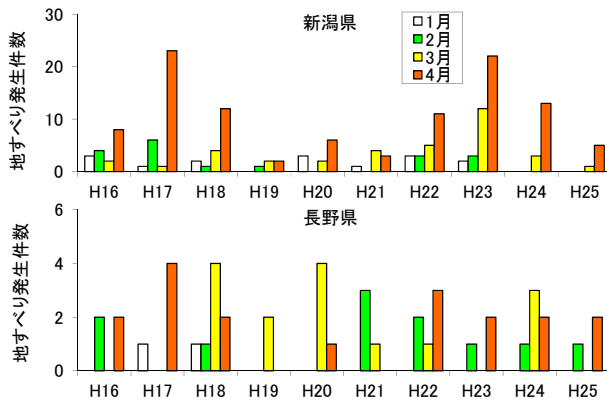


図-1 1~4月の融雪地すべり発生件数の推移

(新潟県、長野県砂防課調べ)

### 2. 今年(2013)の雪崩の発生状況

今冬は、冬型の気圧配置となる日が多く、周期的に強い寒気が南下したため寒い冬となり、北日本から新潟県の山沿いにかけて降雪が多くなりました。年末年始と春の大型連休に悪天候が重なったこともあり、雪崩による人的被害は、死者9名、行方不明4名と、例年よりやや多くなっています(表-1)。また、北海道、東北、北陸では度々雪崩による通行止めや交通規制が発生しました。

表-1 2012-13年冬期の雪崩による人的被害

NO.	発生日	発生場所	被災者	被災状況
1	12月16日	北海道豊富町吹上の十勝連峰 三段山	山スキーヤー	1名死亡
2	12月30日	富山県北アルプス剣岳	登山者	4名行方不明
3	12月31日	長野県北アルプス 明神岳	登山者	2名死亡
4	2月16日	長野県小谷村梅池高原	山スキーヤー	1名死亡
5	3月8日	青森県中津軽郡西目屋村居森平字寒沢	ザルの追い払い作業	1名負傷
6	3月13日	北海道北アルプス 上ホロカメツク山	登山者	1名負傷
7	3月28日	北海道豊富町 豊富野岳	山スキーヤー	1名死亡
8	4月22日	北海道豊富町 豊富野岳	山スキーヤー	1名死亡
9	4月27日	長野県白馬村白馬大雪渓	登山者	3名死亡
10	6月5日	新潟県十日町市松之山	山菜取り	1名負傷

(新聞記事等から人的被害のあったものを整理)

## トピックス

### ■国川地すべりの技術支援

4月9日に、H24年3月7日に発生した新潟県上越市板倉区国川の融雪地すべり災害における避難勧告全面解除のための合同調査が行われました。この調査には、新潟県と上越市の関係者及び、当センターの秋山所長、桂、丸山、木村、畠田が参加しています。調査では地すべり斜面の踏査を行い、安定性が確保されていることが確認されました。写真は、合同調査後に行われた秋山所長による記者会見の様子です。また、5月22日に新潟県の依頼により、国川地すべり頭部切土法面に発生している崩壊対策に関する合同調査を、当センターの秋山所長、桂、丸山、畠田と県の職員で実施しました。



### ■融雪地すべり災害の技術支援

5月7日に、新潟県魚沼市大白川地区の下祝沢砂防堰堤上位斜面で地すべりの発生が確認されました。当センターでは、5月10日に秋山所長、桂、丸山、木村、畠田が北陸地方整備局湯沢砂防事務所の小瀧破間川出張所長とともに現地調査を実施し、今後の対応について技術支援をしました。なお、地すべりの規模は長さ約100m、幅約90m、層厚約15mと推定され、現場には約1mの積雪がありました。



### ■地すべり災害の技術支援

4月22日に、長野県北安曇郡小谷村池原地区の農道に数cmの亀裂が発見され、5月13日には亀裂が高さ約1.8m、幅約25m、長さ約50mに達しました。当センターでは、5月16日に長野県の依頼により秋山所長、桂、丸山、木村、畠田が長野県の職員とともに現地調査を実施し、今後の対応について協議しました。



## ■国際会議

4月7日～12日に、オーストリア共和国ウィーンにおいてヨーロッパ地球科学連合大会 2013 が開催されました。当センターからは木村が参加し、「新潟県東頸城丘陵で融雪期に起こった長距離移動地すべり：地すべりの挙動に積雪が及ぼす影響」というタイトルで、H24年3月7日に上越市板倉区で発生した国川地すべりについて発表しました。今回の大会には95ヶ国から約11,000人が参加し、自然災害のセッションでは地すべりの発生予測や対策に関する150件以上の発表がありました。



## ■学会研究発表会

5月11日に新潟市で日本雪氷学会北信越支部研究発表会、5月19～24日に千葉市で日本地球惑星科学連合2013年大会、5月29～31日に平成25年度砂防学会研究発表会(写真)が、それぞれ開催されました。当センターでは、表-2に示す研究発表を行っています。

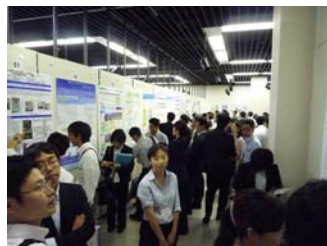


表-2 研究発表一覧表

学会名	タイトル	発表者
2013年度 日本雪氷学会北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会	斜面における多層積雪への降水浸透	伊東靖彦
	斜面と平地の積雪安定度の比較	池田慎二
	Google Earth を利用した雪崩の判読と数値化について - 富山県・立山カルデラの例 -	秋山一弥
日本地球惑星科学連合2013年大会	斜面と平地における積雪への水の浸透の影響の比較	池田慎二
	多雪条件下で発生した長距離移動する地すべりの挙動：新潟県上越地方の国川地すべりの事例	木村 諒
平成25年度 砂防学会研究発表会	地すべり地における地下水排除施設集水管の閉塞防止に関する検討	丸山清輝
	過去の災害事例に基づく融雪地すべりの到達距離の推定	木村 諒
	国川地すべりの発生と運動の特徴	畠田和弘
	新潟県系魚川市柵口地区において2012年に発生した雪崩	伊東靖彦
	浸透水の影響に着目した斜面と平地の積雪の比較	池田慎二

## ■砂防研究会 in 板倉

6月10日に、新潟県上越市板倉区にある地すべり資料館で第21回「砂防研究会 in 板倉」が開催されました。参加者は県及び市の職員であり、56名が参加しました。この研究会では講演と国川地すべり(上越市板倉区)の現地見学が行われ、講演では当センターの秋山所長が「近年の土砂災害・雪崩災害の実態と調査・研究について」と題して講演をしました。



## 平成 25 年度の研究課題

### 雪崩部門

- ①冬期の降雨等に伴う雪崩災害の危険度評価技術に関する研究(プロジェクト研究 H23～26)
- ②雪崩対策施設の管理技術の向上に関する研究(基盤研究 H24～27)
- ③数値シミュレーションを用いた合理的な雪崩防護施設設計諸元の設定手法に関する研究(基盤研究 H24～26)

### 地すべり部門

- ①流動化する地すべりの発生箇所・到達範囲の予測に関する研究(プロジェクト研究 H23～27)

### 転入者あいさつ

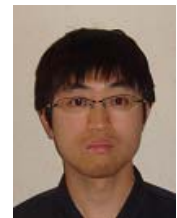
#### ■雪崩・地すべり研究センター上席研究員 秋山一弥

4月に(一財)砂防・地すべり技術センターから異動しました。センターの前身である新潟試験所では過去5年間在勤し、土木研究所は7年ぶり、研究職は4年半ぶりです。引き続き地すべりや雪崩に関する研究を推進したいと思いますので、よろしくお願いいたします。



#### ■研究員 桂 真也

4月に国土交通本省砂防計画課から異動してきました。地すべりと雪崩の研究に従事します。いずれも慣れない分野ですが、精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



### 平成25年度メンバー

所 長 秋山一弥  
主任研究員 伊東靖彦  
研究員 桂 真也  
研究員 丸山清輝  
専門研究員 池田慎二  
専門研究員 木村 諒  
交流研究員 畠田和弘  
非常勤職員 富里加代子  
非常勤職員 近江ひかる  
非常勤職員 田中秀子  
非常勤職員 中村絵美




### ニュートンのリンゴの木

写真は、5月9日の花の状況です。H24-H25の積雪による枝折れなどはありませんでした。しかしながら、H23-H24の積雪による枝折れなどが数多くあったことが影響したためか、今年の花は限られた枝にしか咲きませんでした。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載してありますのでご覧ください。

本日より、H25年度から年3回発行になります。

発行：独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所  
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター   
住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8  
TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: http://www.pwri.go.jp  
掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。